

# 【文章作成のテクニック】

## 解答文章作成のテクニック



# 解答文章の作成のコツ

---

- **設問を読んで解答の準備を行う**  
どのような文章にするかの**戦略が必要**  
すぐに書き始めないで**構想を練る**
- **文字数は、1000文字を想定しておく**  
設問が3つあると、**文字数は約3分割とする**  
おおよそ300文字で各設問に答える  
300文字となる内容を**感覚を掴んでおく**

# 設問内容にすべて答える

---

- 設問を読み解く

問1、問2、問3がある場合が多い

問1は、図や写真などの情報から劣化因子の推定

問2は、原因を特定するための調査方法

問3は、今後数十年供用するための延命化策

- それらの設問内容にすべて答える

# キーワードを記述する

---

- 設問に答えるためのキーワードを書き出す

例えば、

問1については、可能性のある劣化因子

問2については、追加の調査項目

問3については、延命化の対策

- キーワードは、問題集「合格指南」を参照

# 箇条書きの有効利用

---

- **箇条書きで書き出すのは禁物**  
記述式は、説明能力を問われている  
文章で解答することが望まれる
- **箇条書きの使い方**  
しかし、箇条書きは解答の整理に有効  
文章中に箇条書きは効果的

# 文章の文字数は90%以上

---

- 1000文字の要求に対して空白を作らない  
文字数の不足は、内容が不足と判定  
最低でも90%の文字を埋めるべき
- 内容が同じなら、文字数が多い方が有利  
余白が多いと、文字数稼ぎと判定される  
適切な改行は文字数稼ぎとは判定されない

# 書き出し と あとがき

---

- **書き出しを決めておく**  
「問1について」と設問に対して解答  
改行後に、「問2について」と続ける
- **あとがきは決まり文句で**  
延命化策を示した後の文言は、  
「なお、対策を講じても劣化が懸念される  
ため、維持管理を欠かさないことが重要で  
ある。」などと記述しておく

# 減点とならないために

---

- 綺麗な文字より、読みやすい文字  
多くの解答を読む採点者に配慮  
読みやすい文字がストレスにならない
- 専門用語は、正確に漢字で示す  
漢字の間違いは専門性を疑われる
- 短い文で、適切な句読点をつける  
長い文は読みにくい  
句読点が適切であると読みやすくなる

# 添削の方法について

---

- 手書きの解答をほかの人に見てもらう  
 専門家でない人に見てもらう  
 読みやすい文章になっていることを確認
- 査読・添削を希望の人は提出を！
- 添削について、記述式2テーマについて、1原稿
- 合格を目指して頑張りましょう！